

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3071000289
法人名	株式会社はるす
事業所名	グループホームはるすのお家
所在地	和歌山県橋本市菖蒲谷979-1 (電話) 0736-39-3028

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成21年6月3日	評価確定日	平成21年6月19日

## 【情報提供票より】(21年4月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年7月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27 人	常勤 12人, 非常勤 15人, 常勤換算	12.4人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( ) 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 200,000円 ) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

### (4) 利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	6 名	要介護2	7 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.0 歳	最低	64 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	南クリニック、なかいクリニック、堀切歯科医院
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周りを緑の山や畑に囲まれた地域で、ウグイスやキジ等の鳥の声が耳に心地よい環境にあり、尚且つ最寄りの駅から徒歩5分と家族面会等のアクセスにも恵まれている。木造平屋3ユニットのホームで、あずまやもある広い庭は利用者、職員共に憩いの場となっている。また、皆のアイドルのセラピー犬は利用者のケアや職員のストレス緩和に役立っている。職員は親しみやすく、利用者に穏やかに接しており、ゆったりした関わりがなされている。共有スペース、居室共に掃除が行き届いており気持ちよく過ごせるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の要改善項目に大きな改善が見られず、取り組みを強化する事が望まれる。具体的に目標を設定し、全職員で臨む事が求められる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	月1回行われるミーティングで自己評価票の項目について職員から聞き取りをし、ホーム長がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	半年に1回、地域包括支援センター職員、地区民生委員、利用者家族などの参加を得て開催されている。内容は事業所現況、行事の案内や報告で、参加者からの質問や提言などを受け、運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に声をかけたり、また要望書を送付し、意見や苦情を吸い上げるようにしている。出てきた意見等は出来ることから運営に反映させるようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは民家から離れたところに位置するため、地域との連携は日常的にはなされていない。老人会の見学やボランティア等の受け入れを推進しているため、効果が上がる今後に期待したい。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関などの目に付くところにユニットごとの理念が掲示されているが、平成18年に改正された介護保険法で新設された地域密着型サービスとしての役割を反映していない。地域との関係性重視という点において不足している。	○	新保険法に対応して地域密着型サービスとしての役割を反映した文言を付け加えることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護計画作成には理念に則って話し合いがすすめられており、職員間で共有が図られ、日々の実践に活かされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しているものの自治会からは特別形態（施設）として受け止められており、清掃等の案内が来ていない。ボランティア（エレクtoon演奏、歌）の人が出入りするも地域とのつきあいは充実していない。	○	地域交流に向け弾みがつくと思われる、老人会からの見学受け入れ等の取り組みを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は月1回のミーティングの際、職員ヒアリングを行いユニットマネージャーやホーム長がまとめているが職員全体に行き届いておらず、外部評価に対しても温度差が感じられる。	○	職員全員で評価に取り組むことで改善に向けての意識を共有し、サービスの質の確保・向上に活かして行く事が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	半年に1回と開催回数は多くはないが地域包括支援センター職員、地域民生委員、利用者家族等で構成され、内容は事業所からの現況報告や行事の案内で、参加者からの質問や要望・提言などを受けている。出された意見は職員間で話し合い、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員の研修などの案内やサービス内容についての説明、書類の提出等、市役所職員との窓口を一本化して本社部長が折衝役となりスムーズに行っている。また毎月開催される地域包括ケア会議に職員が出席し、情報交換を行うようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月金銭出納帳やモニタリングを送付している。また面会の少ない家族には必要に応じ電話で連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声をかけて意見等記入していただいたり、また要望書を送り、意見・苦情を表す機会を設けている。出てきた意見等はできることから運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視して職員の異動は極力抑えており、代わる時はダメージを防ぐために引き継ぎ期間を長く取るなど配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者等の養成研修については年間の養成研修計画を立てているがその他の外部研修については人手不足の為機会の確保が出来ず参加できていない。	○	今後、職員育成の機会を確保する上で、出張扱いでの外部研修参加を推進していく計画を本社ですすめており、期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入しており、また地域包括支援センター主催のケア会議に参加し地域の同業者と交流する機会を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談しながら出来るだけダメージを与えないように、雰囲気に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人を介護される一方の立場におかず、それぞれ役割を持って得意なことが出来るよう支援している。また料理や生活の知恵、漢字の読み方など教えていただくことも多く、喜怒哀楽を共に出来る関係となっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思をはっきりと表明できる利用者についてはその意向等を受けとめるようにしている。困難な方には家族等から生活歴をうかがったりして意向の把握につとめたり、本人本位の対処を心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のミーティングにおいて、本人の希望や家族からの要望書も加味して介護計画を作成している。また主治医や訪問看護師のアドバイスも参考にして本人がその人らしく暮らし続ける為の検討をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1～3ヶ月ごとに介護計画の評価・見直しを行っている。また変化が生じた場合等、必要に応じて随時見直しを行うよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、負担となる受診や入院の回避や、日常生活を円滑にする医療行為をうけることができる。自主サービスとして季節ごとのお花見等の遠足や、外泊支援も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望のかかりつけ医の受診を支援している。またホームの協力医療機関に変更する際には本人、家族の同意と納得を得て、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や、終末期について家族、主治医、訪問看護師と話し合い、連携をすすめている。今後は看取り加算の申請で文書を交わすこととなり、方針を共有し更なる連携強化を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライドを傷つけないような声かけや対応を心掛けている。トイレや入浴の際は特にさりげない介助に配慮し、個人情報などの書類は慎重に取り扱い、事務所で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合に合わせるのではなく、利用者一人ひとりのペースや希望を推し量って、その人らしい生活を送れるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員も一緒に同じものを食べるようにしている。さらに配膳や片づけ、野菜の下準備など出来ることは職員といっしょに行う等食事が楽しいものとなるよう配慮している。食事は利用者の食べたいものや行事に合わせたメニューにするよう心掛け提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望すれば基本的に毎日入浴が可能なので、一人ひとりの希望や体調により入浴を行っている。毎回湯の入れ替えをしており、利用者にとって気持ちの良い、くつろいだ入浴になるよう配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌や家事(雑巾を縫ったりボタン付け等)やいろいろな場面で役割を持ってもらう等、それが喜びや張り合いにつながるよう支援している。意思確認の困難な方は家族等から生活歴を聞き少しでも本人本位に検討し支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	大勢での外出は難しいが少人数の外出支援(散歩や買い物)は行っている。また事業所の敷地は広く、自然に囲まれており、開放的で気分転換ができる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関や勝手口は夜間のみ施錠となっている。警察からの指導もあり門扉は通常施錠して職員が鍵で開けるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器や自動通報装置、警報装置、避難路の確保(整理整頓)等の設備点検や訓練は定期的に行っている。食料、飲料水の備蓄の確保もあるが、地域とのつきあいが薄く協力体制が得られていない。	○	災害等の非常時には職員だけでは限界がある為、地域の人々の協力を得られるように日頃から話し合い、一緒に訓練を行うなどの取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を心掛けている。個々に応じて刻みやミキサー食、水分にとろみをつけるなど摂取しやすい工夫の中で「水分摂取表」に記録し、チェックするようにしている。食事の好みも把握し出来るだけ献立に反映するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りや花を活け、五感を働かせて生き生きと生活していけるよう、音や光、におい等にも気を配っている。畳の空間もあり、利用者にとって居心地よくまた安心して過ごせる場所となるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた家具、仏壇等、馴染みのものや、好みのもを活用して、居心地よく過ごせる工夫がなされている。また家族の写真や趣味のもを飾る等その人らしい居室作りに気をつけている。		